

2020 年京大理 [6]

$z = \sqrt{\log(x+1)}$ は単調増加な関数である。 S の $x = k (0 \leq k \leq 1)$ による切り口を考える。 S の yz 平面への正射影を考えると、 $x = k$ のとき、

$$\sqrt{\log(k+1)} \leq z \leq \sqrt{\log 2}$$

$z = t (\sqrt{\log(k+1)} \leq t \leq \sqrt{\log 2})$ のとき、 $x = e^{t^2} - 1$ であるから、 S の $z = t$ による切り口は、円 $x^2 + y^2 = (e^{t^2} - 1)^2$ である。

この円と、 $x = k$ との交点は、 $(k, \pm\sqrt{(e^{t^2} - 1)^2 - k^2}, t)$ であるから、

$$y = \pm\sqrt{(e^{t^2} - 1)^2 - k^2}, z = t \text{ より } t \text{ を消去して}$$

$$y^2 + k^2 = (e^{z^2} - 1)^2 \quad e^{z^2} = \sqrt{y^2 + k^2} + 1$$

$$\therefore z = \sqrt{\log(\sqrt{y^2 + k^2} + 1)} \quad (\sqrt{\log(k+1)} \leq z \leq \sqrt{\log 2})$$

この曲線は z 軸対称であり、 $y = 0$ で最小である。

$x = k$ において、この曲線上の点と x 軸との最短距離は $\sqrt{\log(k+1)}$ であり、最長距離は $\sqrt{\log 2 + (1 - k^2)}$ である。

V の $x = k$ による断面の形状はドーナツ形になり、面積は

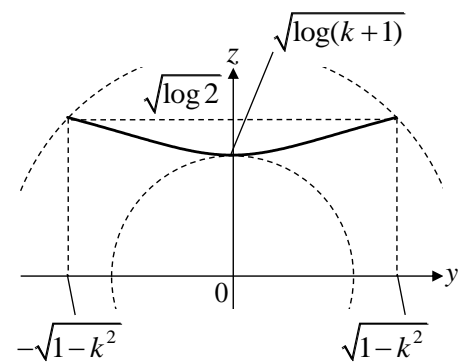
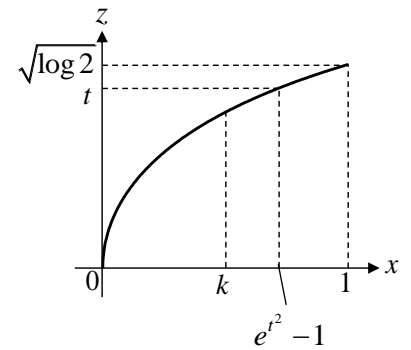
$$\pi\{\log 2 + 1 - k^2 - \log(k+1)\}$$

対称性より、 V の体積は

$$2\pi \int_0^1 \{\log 2 + 1 - k^2 - \log(k+1)\} dk$$

$$= 2\pi \left[(\log 2 + 1)k - \frac{k^3}{3} - (k+1)\log(k+1) + k \right]_0^1 = 2\pi \left(\log 2 + 1 - \frac{1}{3} - 2\log 2 + 1 \right)$$

$$= 2\pi \left(\frac{5}{3} - \log 2 \right) \dots\dots (\text{答})$$



※2017 年東大理 [6] に似ているが、切り口の曲線の増減や凹凸まで厳密に論証しなくてよいのでは。